

平成30年9月25日

各 部 局 長 様

犬山市長

山田 拓郎

平成31年度当初予算編成方針について（通知）

8月に実施計画事業（平成31～34年度）の各課ヒアリングを実施し、今後犬山市が取り組むべき事業が概ね把握できたところです。そこで、こうした事業の実施を念頭に今後4年間の財政シミュレーションを作成しました。結果的に昨年度までの財政状況と比較すると、一定の改善が見られる状況になってきたと言えます。全庁的な事務事業の総点検を機に、財源確保と無駄な支出の抑制への取り組みの成果が表れてきたと感じています。引き続き「産業が栄え 幸福が実感できる犬山」を目指し、次の事業を軸として平成31年度の予算編成を目指すこととします。

- ① 地域経済の活性化を目指した新しい都市拠点整備
- ② 子どもたちの教育内容と環境の充実（読解力の向上、小中学校へのエアコン設置、楽田小学校の改修など）
- ③ 安全安心のまちづくりの推進（五ヶ村排水区、犬山地区の浸水対策、星和橋対策、消防車両の購入など）
- ④ 利便性の高い都市空間の提供（コミュニティバスの充実、犬山駅東西連絡橋改修など）
- ⑤ 少子高齢化等により社会保障費が増大する中での充実した福祉施策の堅持（国民健康保険広域化に伴う保険料負担の激変緩和、現行サービス水準の維持など）
- ⑥ 望ましい環境像の実現（環境基本計画の改訂、省エネなど環境負荷低減技術の導入など）
- ⑦ 懸案事項への取り組み（広域ごみ処理事業の推進、富岡荒井線、楽田桃花台線の道路整備など）
- ⑧ ファシリティマネジメントの推進（福祉会館、フロイデ、楽田出張所、文化史料館南館建設など）
- ⑨ 財源確保（ふるさと犬山応援寄附金の獲得、市街化区域内低未利用地の活用推進、不用財産の売却、余剰地の活用など）

※予算編成に向けて、以下の点に留意の上で進めてください。

- ・ 創意工夫による市民サービスの利便性・効率性・付加価値の向上
- ・ 常に事業や事務のあるべき姿を再検証、先進自治体や民間との比較などを実施
- ・ 事業効果と市民の信頼を高めるための見せ方・伝え方の工夫
- ・ 資産活用についての創意工夫（公共空間の活用、官民連携など）
- ・ 近隣市町との事業共同化の検討
- ・ 新たな補助金等を獲得するための積極的な情報収集